

平成 23 年度

鳥取市中心市街地活性化に関する

調査結果報告書

(郵送アンケート)

平成 24 年 3 月

鳥取市 都市整備部 中心市街地整備課

【目次】

I 調査の概要	2
1. 鳥取市中心市街地活性化に関するアンケート	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の内容	2
(3) 配布・回収の結果	2
II 調査結果の概要	2
1. 中心市街地との関わり	2
①中心市街地に出かける回数	2
②中心市街地に出かける交通手段	3
③中心市街地に出かける目的	4
④中心市街地に出かける機会の増減	5
⑤中心市街地に出かける場所の増減	6
⑥中心市街地に出かけた場合の平均的な滞在時間	7
2. 中心市街地のあり方	8
①中心市街地の現在の印象	8
②中心市街地全体の印象	10
③中心市街地活性化に重要なこと	11
3. 中心市街地活性化の取り組み事業の関心度	13
①公園・駐車場等の整備による都市環境の改善	13
②都市福利施設の整備の推進	14
③街なか居住の推進	14
④商業等の活性化	15
⑤公共交通機関の利便性の向上	15
4. 回答者の属性	16
①居住地	16
②性別	16
③年代	17
④職業	17
5. 中心市街地活性化についての取り組み等（自由記載）	18
(資料) アンケート調査票	19

I 調査の概要

1. 鳥取市中心市街地活性化に関するアンケート

(1) 調査の目的

鳥取市は、現行の「鳥取市中心市街地活性化基本計画」が平成25年3月に終了することをふまえ、平成24年度に新たな「鳥取市中心市街地活性化基本計画」を策定し、引続き中心市街地の活性化に取り組むこととしている。

このたび、その計画策定における参考資料とするため、広く市民の意見を集約し、意向を把握するものである。

(2) 調査の内容

- ①調査対象 満15歳以上の市民4,000人
- ②調査方法 郵送調査
- ③調査期間 平成24年2月10日(金)～2月23日(木)
- ④調査委託先 (株) 情報サービス鳥取

(3) 配布・回収の結果

- ①配布数 4,000枚
- ②回収数 1,605枚
- ③回収率 40.1%

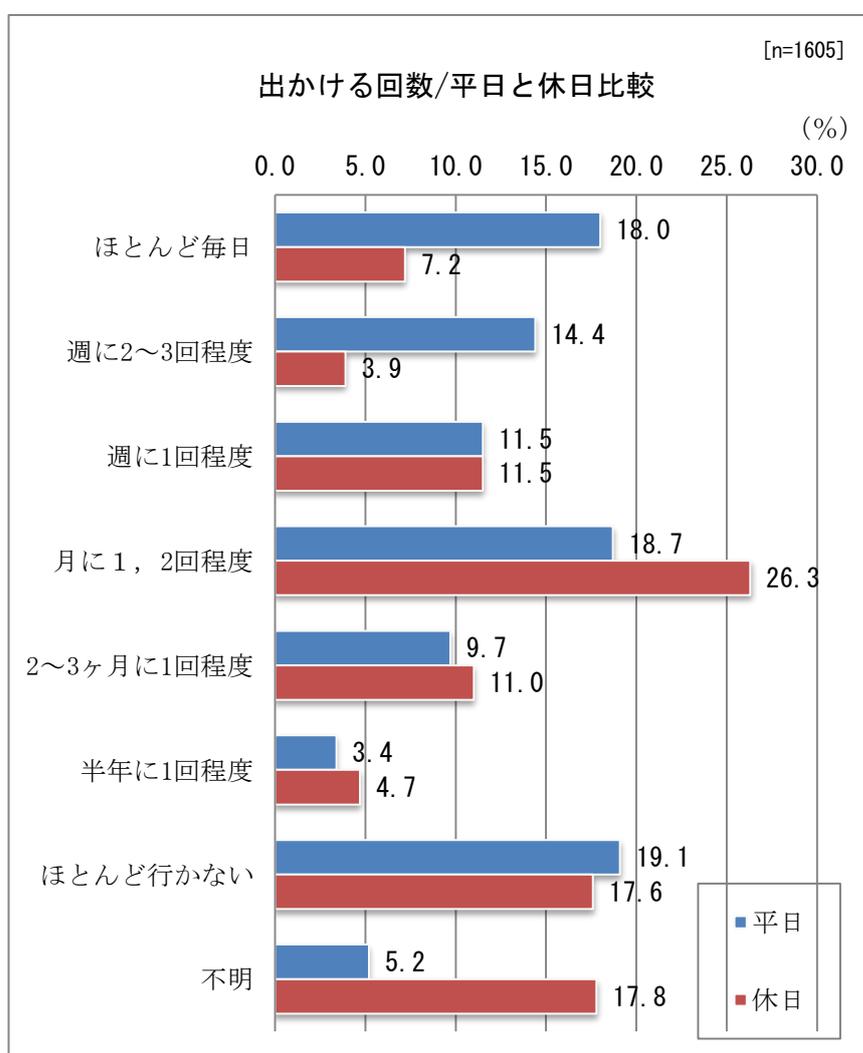
Ⅱ 調査結果の概要

1. 中心市街地との関わり

① 中心市街地に出かける回数

出かける回数では、平日と休日とも「月に1、2回程度」が最も多い結果となっており、「2～3ヶ月に1回以下」では、平日、休日においてあまり差が見られない。

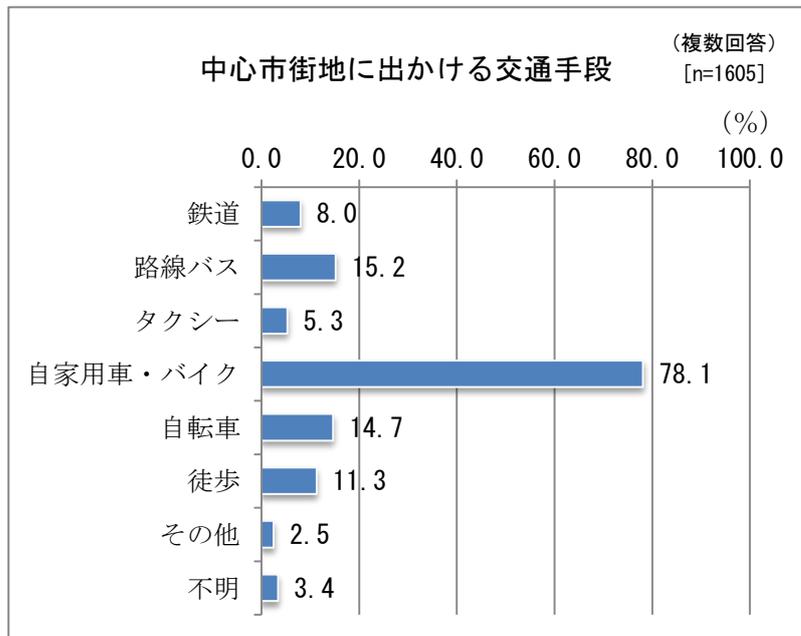
「月に1回以上」は、平日が62.6%、休日が48.9%となっており、概ね2人に1人は月1回以上、中心市街地に出かける機会があることがうかがえる。



② 中心市街地に出かける交通手段

交通手段では、「自家用車・バイク」が78.1%と最も多い結果となっている。

「鉄道」「路線バス」等の公共交通機関を利用するの来街者は、全体の2割強であることから、市民の移動のための交通手段としては、「自家用車・バイク」が主流であることがうかがえる。

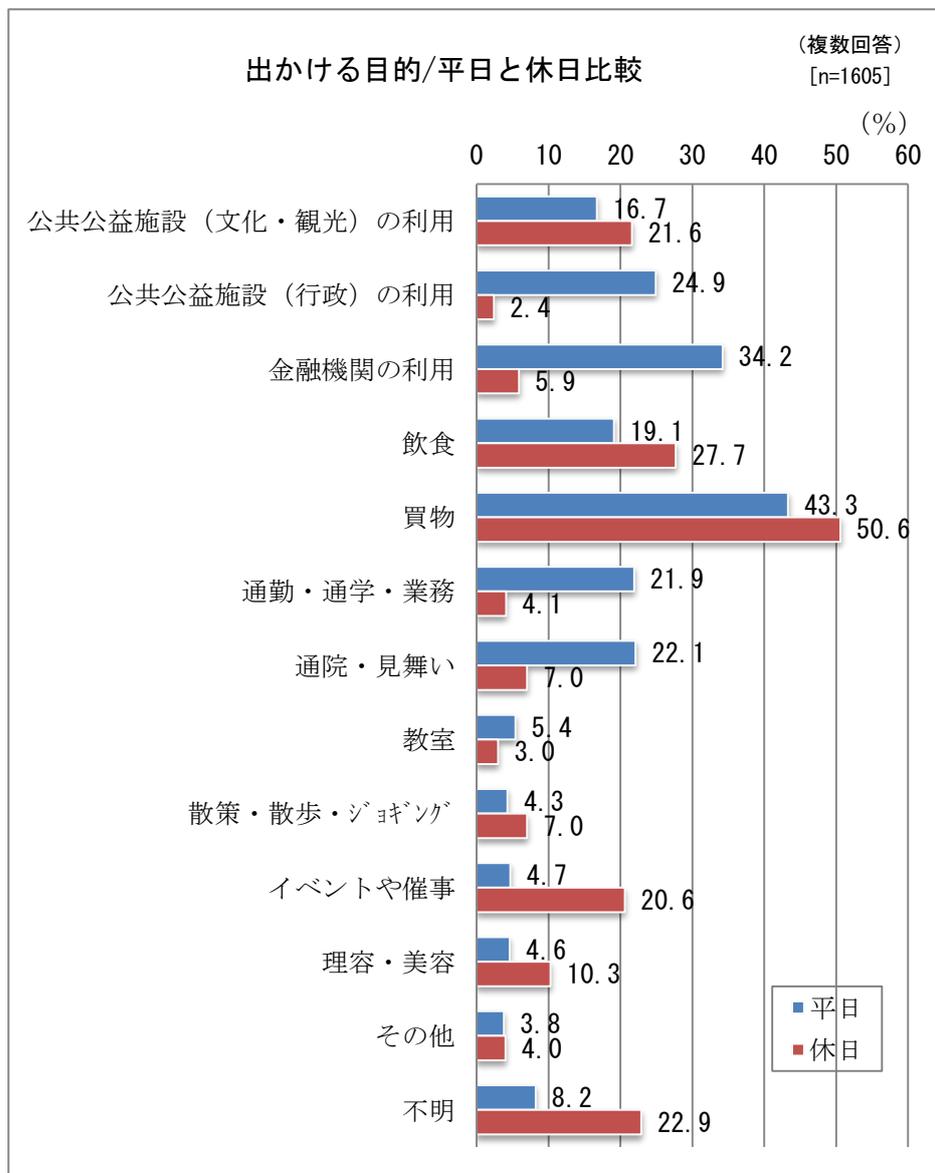


③ 中心市街地に出かける目的

出かける目的では、平日、休日ともに「買物」が最も多くなっており、平日では43.3%、休日では50.6%であった。

平日では、「買物」に次いで「金融機関の利用」が34.2%、「公共公益施設（行政）の利用」が24.9%となっている。

休日では、「買物」に次いで「飲食」が27.7%、「公共公益施設（文化・観光）の利用」が21.6%となっている。



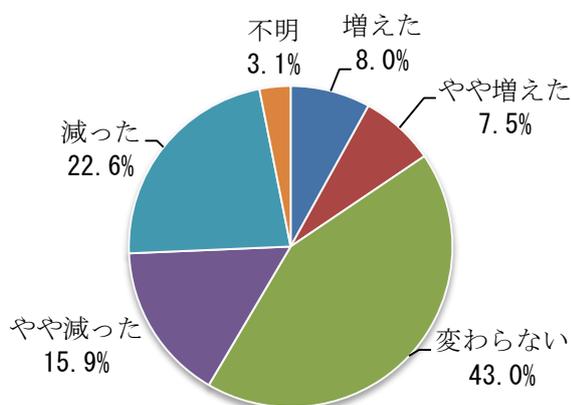
④ 中心市街地に出かける機会の増減

5年前(平成18年)に比べて、出かける回数の増減については、「変わらない」が43.0%で最も多く、次いで「減った」が22.6%となっている。

「増えた(「やや増えた」含む)」は15.5%に対し、「減った(「やや減った」含む)」では38.5%となっており、5年前に比べて中心市街地に出かける機会は減少傾向にあることがうかがえる。

出かける機会の増減

[n=1605]



[出かける機会の増減の理由：自由記載(回答者数 839人)]

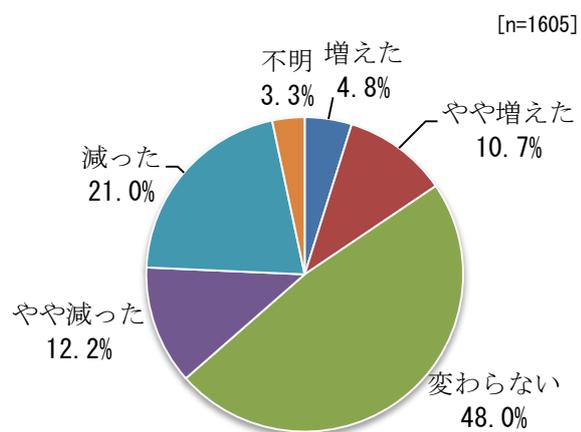
◆「増えた・やや増えた」の主な理由 (回答者数 205人)		◆「減った・やや減った」の主な理由 (回答者数 424人)	
項目	件数※	項目	件数※
転勤・進学など	57件	中心市街地以外で用事を済ます	72件
買物・飲食・散策など	28件	転居・転勤など	66件
通院・見舞い	25件	中心市街地での用事、目的がない	53件
中心市街地に転居	16件	店舗の減少・魅力不足	46件
イベント・催事	9件	駐車場が利用しにくい	40件
その他	78件	その他	158件

※1つの回答のなかで複数の項目に関連する記載がある場合それぞれ1件としているため、件数の合計は回答数と異なる

⑤ 中心市街地に出かける場所の増減

5年前（平成18年）に比べて、出かける場所の増減については、「変わらない」が48.0%で最も多い。「増えた（「やや増えた」含む）」は15.5%に対し、「減った（「やや減った」）」では33.2%となっており、中心市街地に出かける機会の増減と同じ傾向となっている。

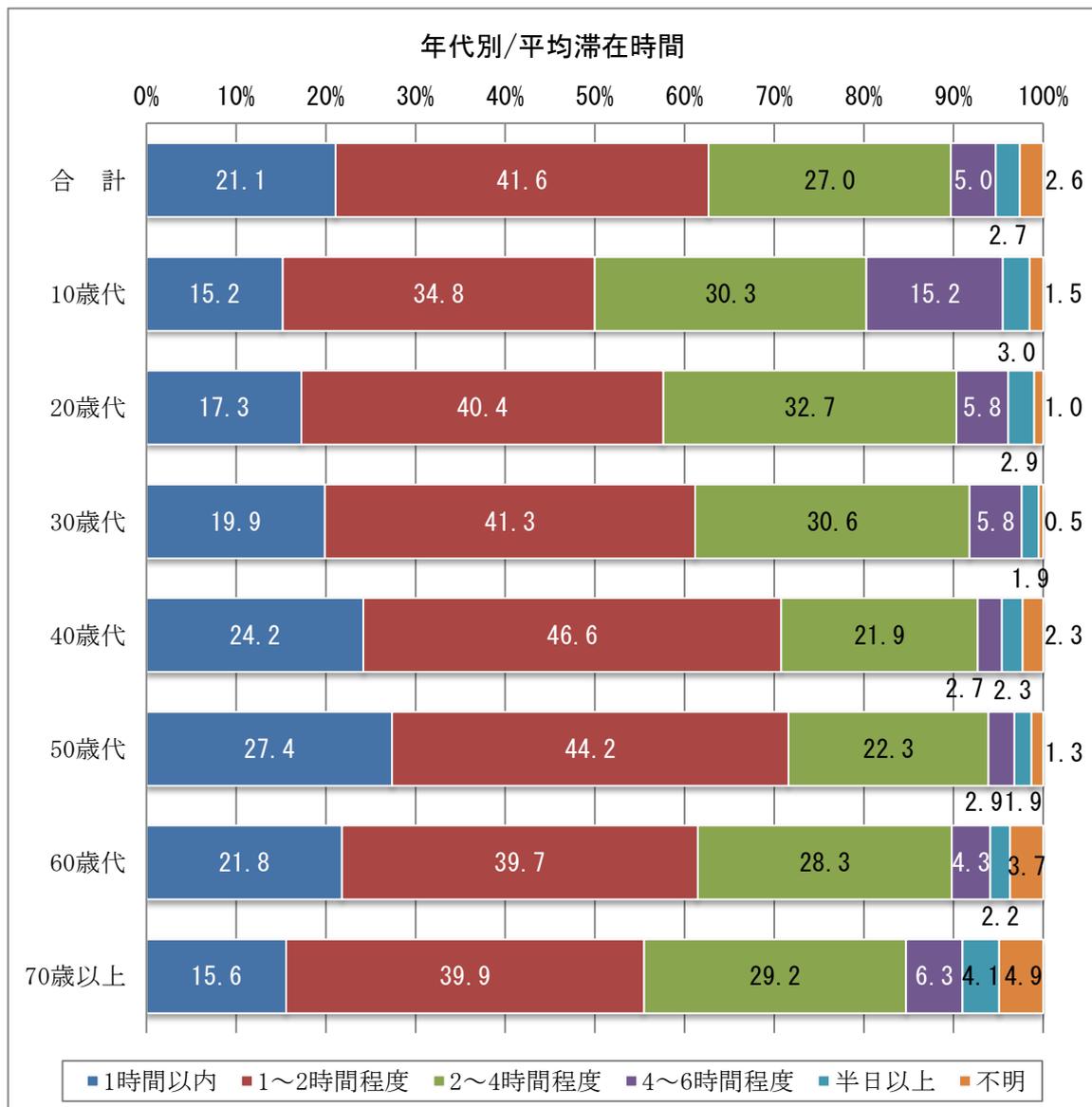
出かける場所の増減



⑥ 中心市街地に出かけた場合の平均的な滞在時間

平均的な滞在時間では「1～2時間程度」が最も多く41.6%、次いで「2～4時間程度」が27.0%となっている。

年代別では、各年代とも「1～2時間程度」が最も多く、「2～4時間程度」が次いで多くなっている中、「40歳代」「50歳代」においては、「1時間以内」が「2～4時間程度」を上回る結果となっている。



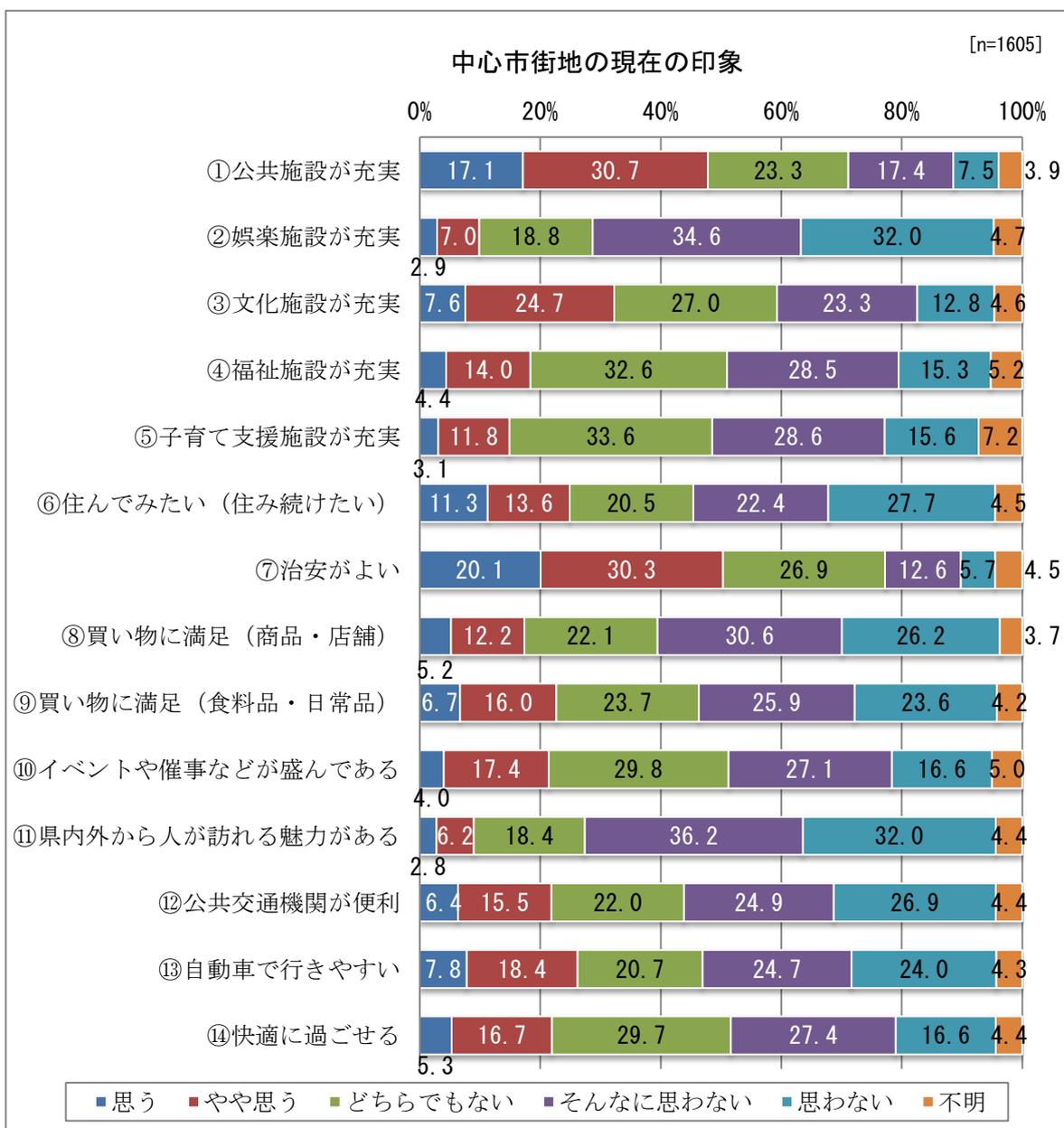
2. 中心市街地のあり方

① 中心市街地の現在の印象

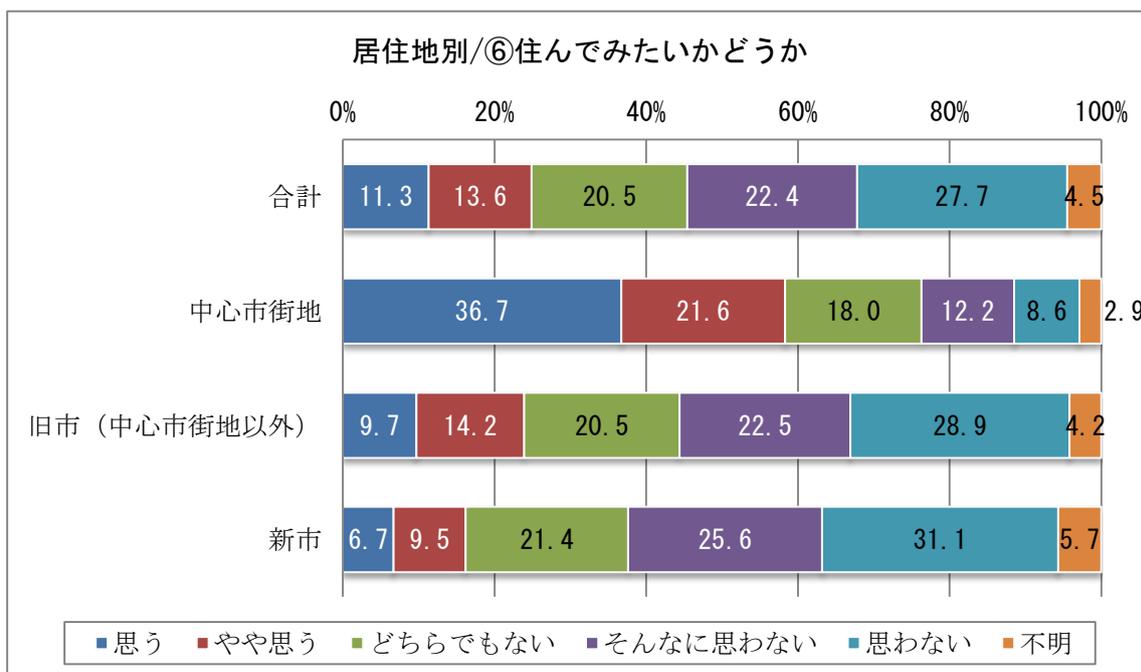
中心市街地の現在の印象では、14 設問中 12 設問で否定的な意見である「思わない（「そんなに思わない」含む）」が「思う（「やや思う」含む）」を上回る数値となっている。

最もポイント差があったのは、「⑪県内外から人が訪れる魅力がある」が 59.2 ポイント差、次いで「②娯楽施設が充実」が 56.7 ポイント差となっている。

一方、肯定的な意見が多かったのが「①公共施設が充実」および「⑦治安がよい」で、約 5 割となっている。



「⑥住んでみたい（住み続けたい）」に対する回答を居住地別で見ると、「中心市街地」に居住する住民では、「思う（「やや思う」含む）」が約6割を占めており、他の地域に比べて高い数値となっている。一方、「新市」「旧市（中心市街地以外）」では「思わない（「そんなに思わない」含む）」が半数を超えており、居住地によって意識が異なる結果となっている。

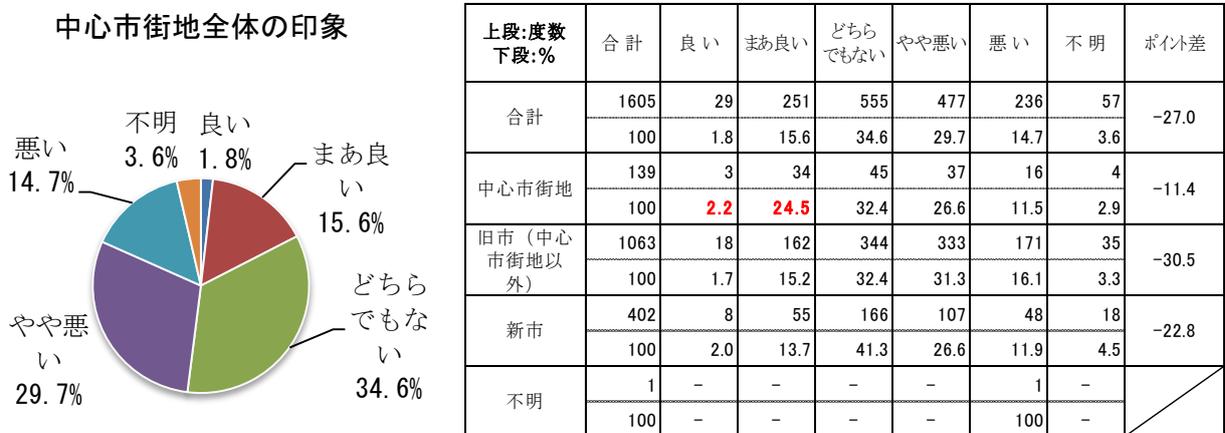


② 中心市街地全体の印象

現在の中心市街地全体の印象では、「どちらでもない」という中間的意見が 34.6%と最も多くなっている。「悪い（「やや悪い」含む）」の否定的な意見は、44.4%となっているのに対し、「良い（「まあ良い」含む）」の肯定的意見は 17.4%にとどまっている。

回答者の居住地別でみると、いずれの場合も「悪い（「やや悪い」含む）」が「良い（「まあ良い」含む）」を上回る結果となっている。その中で、中心市街地においては肯定的な意見の割合が 25.0%を超えている。

回答者の居住地別の中心市街地の印象



※ポイント差
 (「良い」+「まあ良い」)-(「悪い」+「やや悪い」)

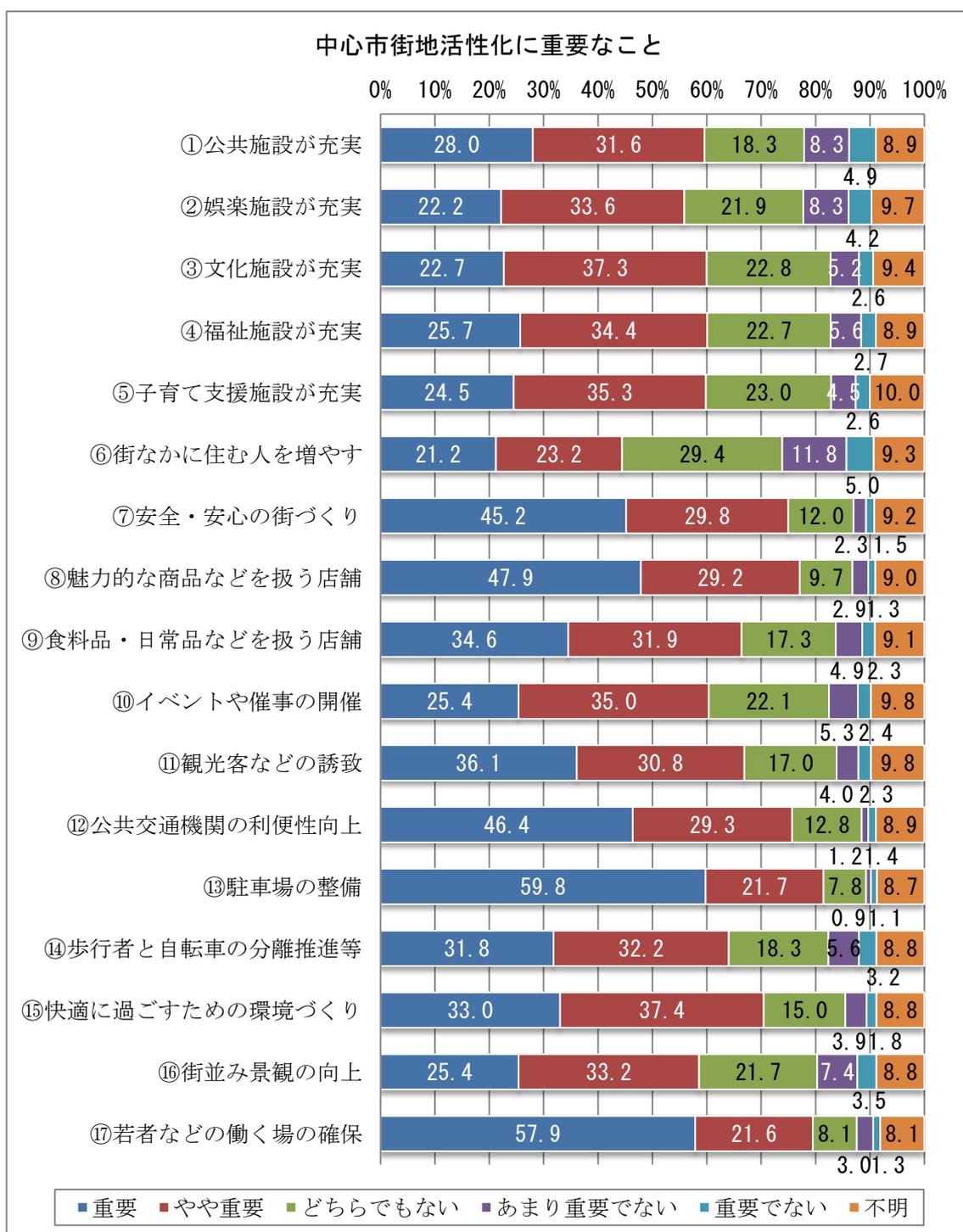
[全体の印象の選択理由：自由記載（回答者数 971 人）]

◆「良い、まあ良い」を選択した主な理由 (回答者数 145 人)		◆「悪い、やや悪い」を選択した主な理由 (回答者数 578 人)	
項目	件数※	項目	件数※
街の雰囲気 (閑静、落ち着いた感、風情がある)	27 件	街の雰囲気(寂れている、活気がない)	187 件
暮らしやすい・治安がよい	16 件	商店街の魅力不足(店舗、商品)	137 件
歩きやすい・交通機関が便利	14 件	空き店舗が多い・営業時間が短い	95 件
公共施設・機関が充実	12 件	駐車場が利用しにくい	95 件
以前より良くなっている	9 件	人通りがない	50 件
その他	72 件	その他	109 件

※1つの回答のなかで複数の項目に関連する記載がある場合それぞれ1件としているため、件数の合計は回答数と異なる

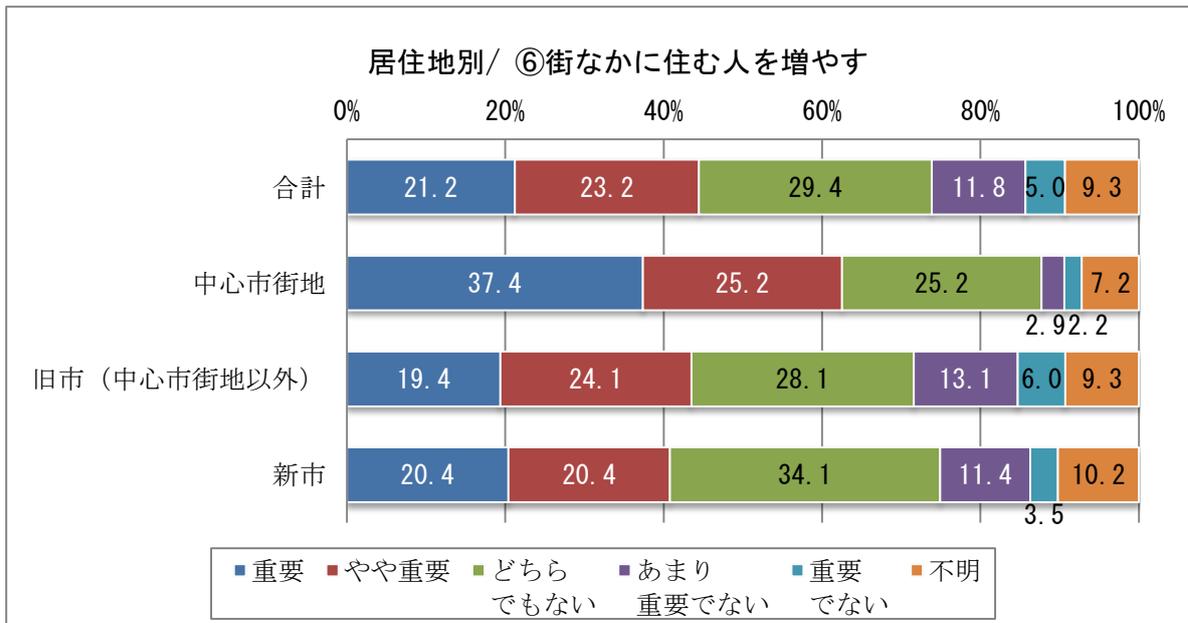
③ 中心市街地活性化に重要なこと

今後、中心市街地を活性化するために重要なことでは、全体として「重要」もしくは「やや重要」が最も多くなっており、特に項目別の上位から「⑬駐車場の整備」(81.5%)、「⑰若者などの働く場の確保」(79.5%)、「⑧魅力的な商品などを扱う店舗」(77.1%)、「⑦安全・安心の街づくり」(75.0%)の順となっている。



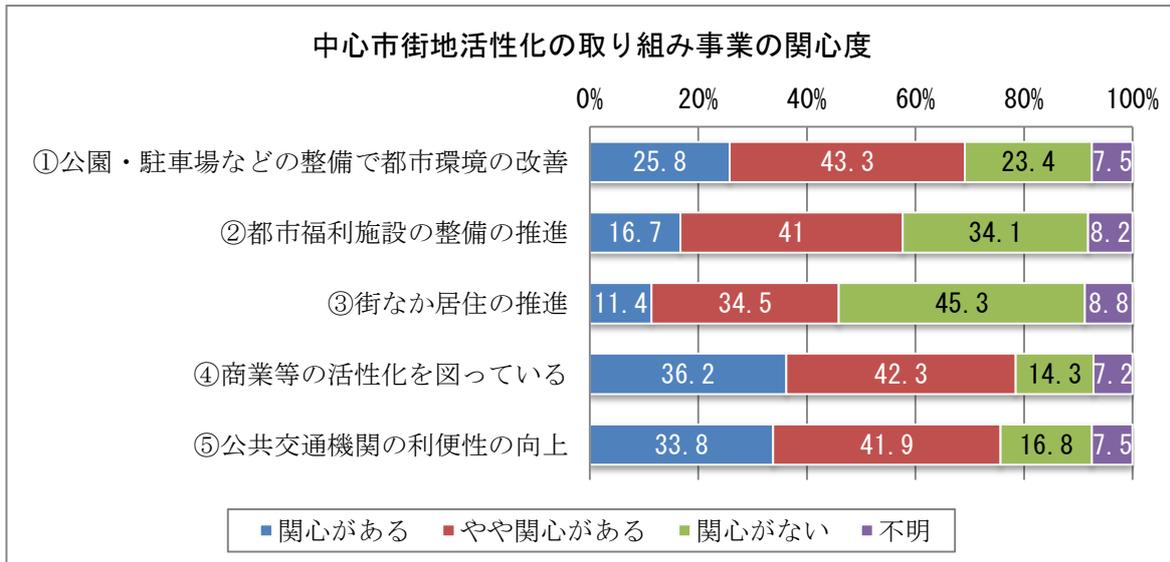
「⑥街なかに住む人を増やす」については、中間的意見である「どちらでもない」が29.4%で最も多くなっている。

居住地別でみると、中心市街地以外では中間的意見が多いのに対し、中心市街地では「重要」が37.4%と最も高く、「やや重要」と併せると6割に達している。



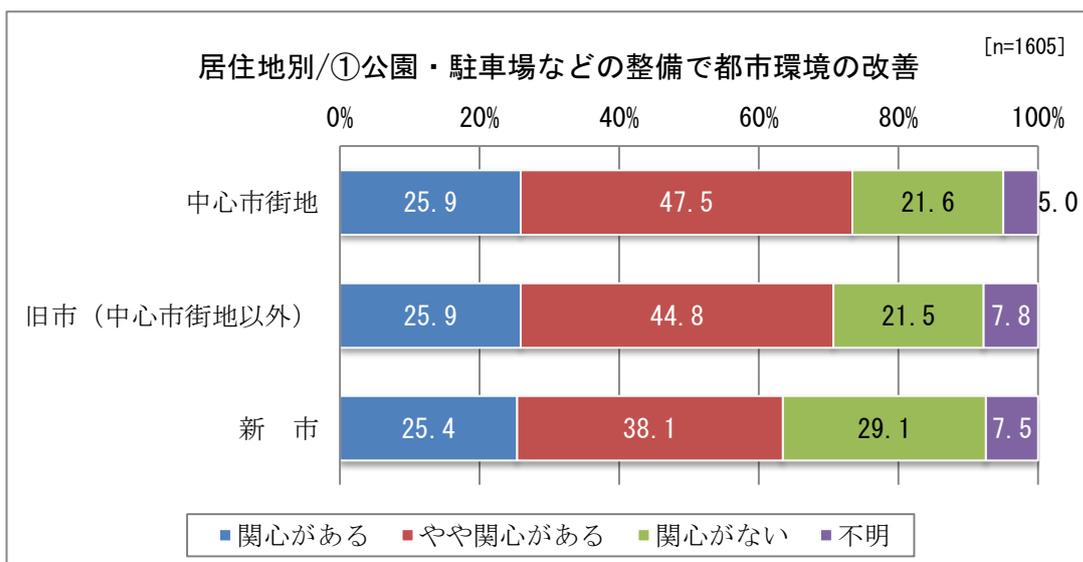
3. 中心市街地活性化取り組み事業の関心度

中心市街地を活性化するための取り組み事業では、全体的に関心度が高いことがうかがえる。特に「④商業等の活性化を図っている」「⑤公共交通機関の利便性の向上」については7割を超えている。



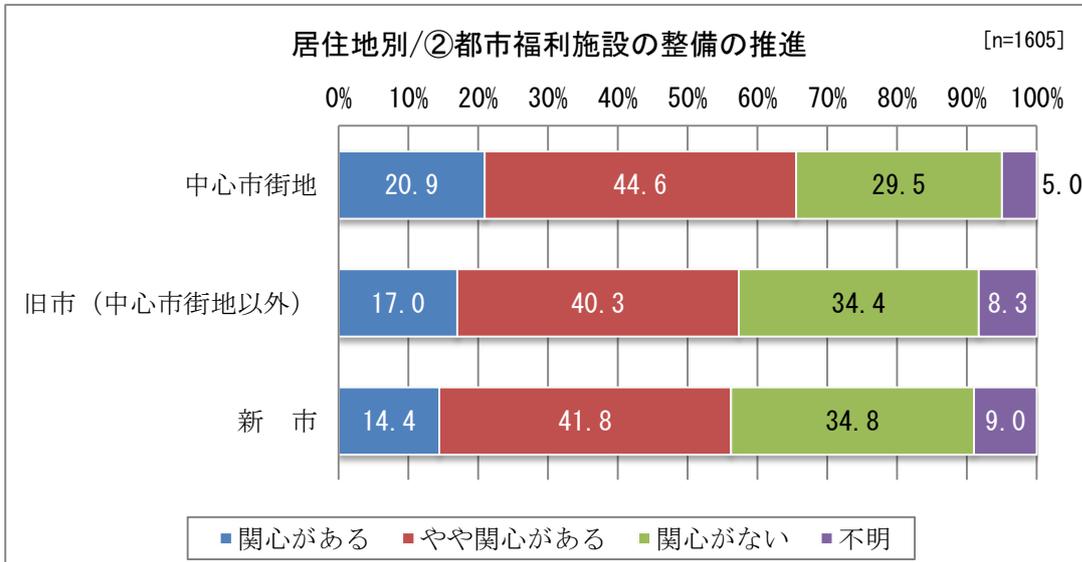
① 公園・駐車場等の整備による都市環境の改善

居住地別にみると、「中心市街地」では73.4%が「関心がある（「やや関心がある」含む）」と回答しており、関心が高いことがうかがえる。一方で「新市」では「関心がない」が他の地域に比べて高く、約3割に達している。



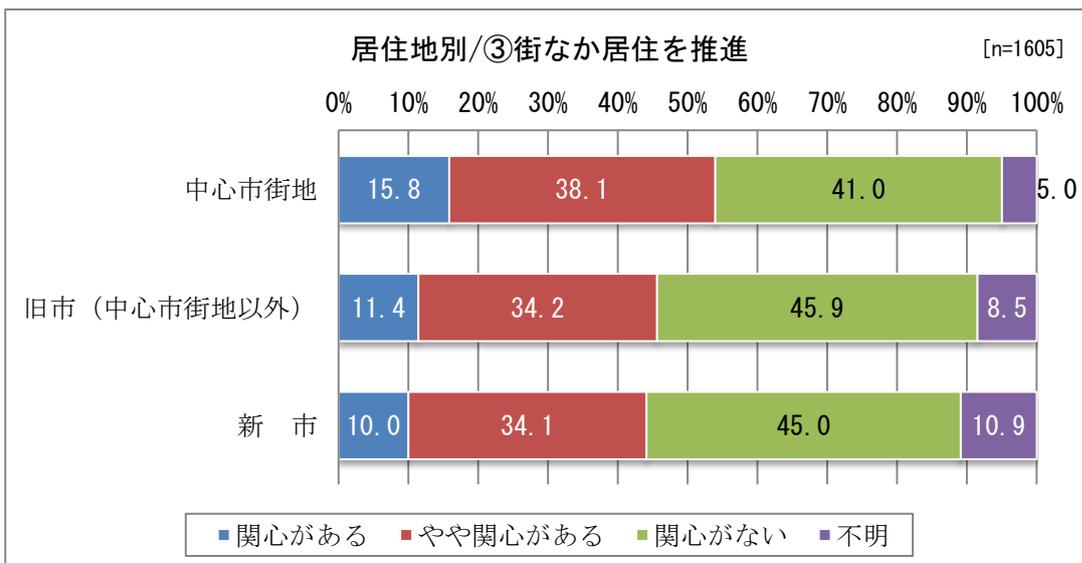
② 都市福利施設の整備の推進

居住地別にみると、いずれの場合も「関心がある（「やや関心がある」含む）」が全体の半数以上を占めている。



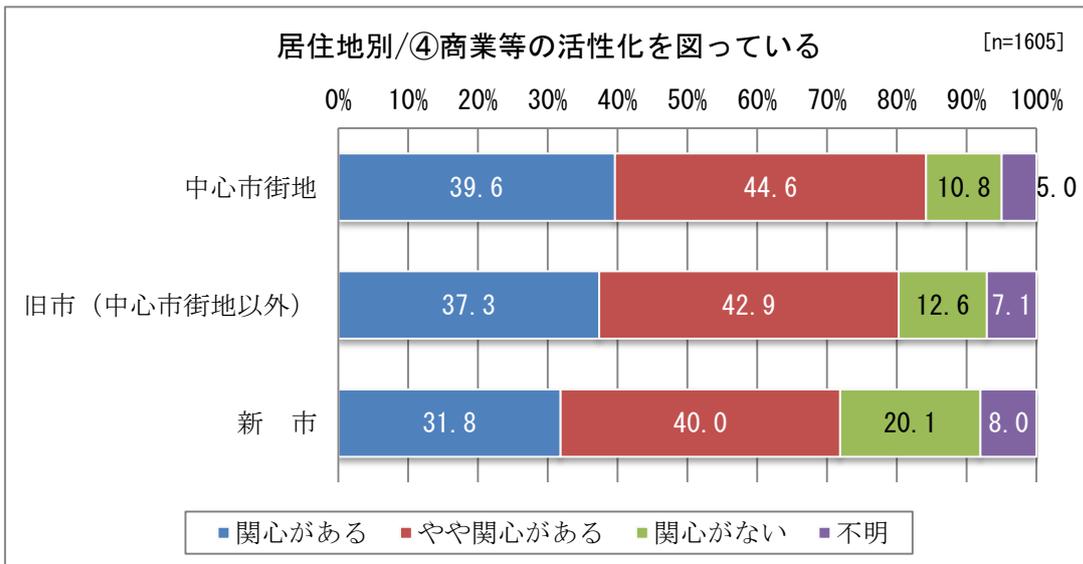
③ 街なか居住の推進

居住地別にみると、中心市街地では「関心がある（「やや関心がある」含む）」が5割を超えており、他の地域に比べてやや高くなっている。



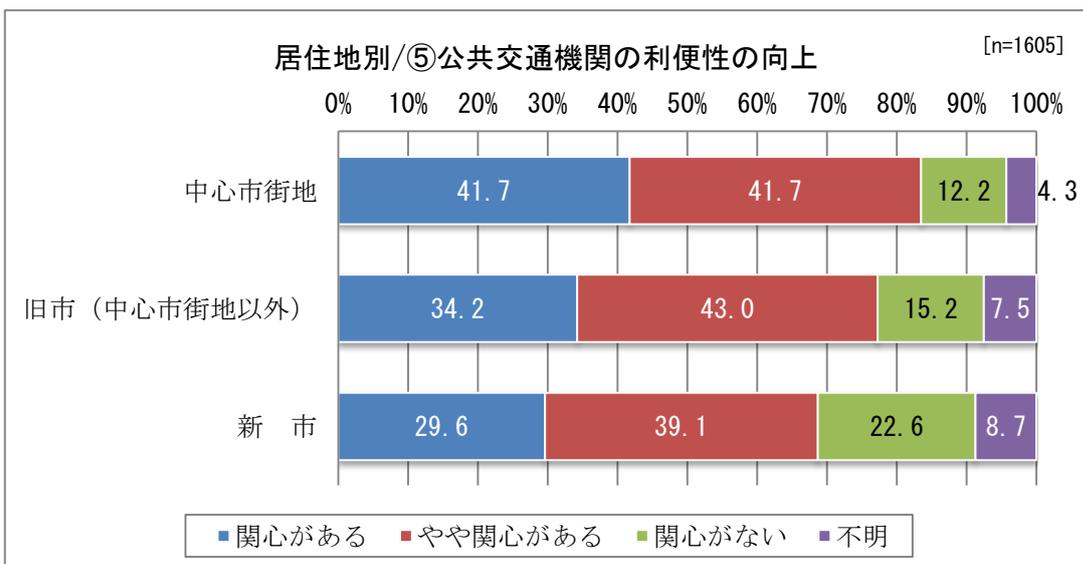
④ 商業等の活性化

居住地別にみると、「関心がある（「やや関心がある」含む）」が「中心市街地」で84.2%、「旧市（中心市街地以外）」で80.2%、「新市」で71.8%といずれの場合も非常に高くなっている。



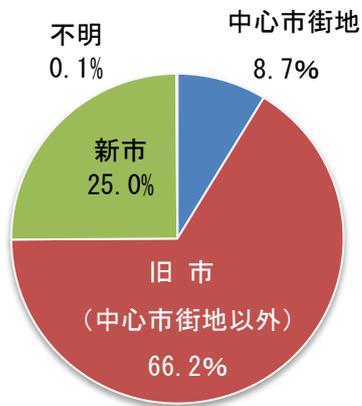
⑤ 公共交通機関の利便性の向上

居住地別にみると、「中心市街地」が最も関心が高く、「関心がある（「やや関心がある」含む）」は83.4%となっている。中心市街地に出かける交通手段として「鉄道」「路線バス」の利用度が低い一方、公共交通機関の利便性の向上に関しては、全体的に関心が高いことがうかがえる。



4. 回答者の属性

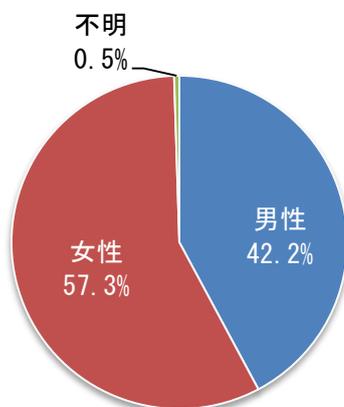
① 居住地



居住地別/配布枚数および回収枚数

居住地別	送付数	回収枚数	居住地別回収率
中心市街地	365 9.1%	139 8.7%	38.1%
旧市 (中心市街地以外)	2,667 66.7%	1,063 66.2%	39.9%
新市	968 24.2%	402 25.0%	41.5%
不明		1 0.1%	
サンプル数	4,000	1,605	40.1%

② 性別



カテゴリ	回答数 (人)	(割合) %
男性	678	42.2
女性	920	57.3
不明	7	0.5
合計	1,605	100

③ 年 代

カテゴリ	回答数 (人)	(割合) %
10歳代	66	4.1
20歳代	104	6.5
30歳代	206	12.8
40歳代	219	13.6
50歳代	310	19.3
60歳代	325	20.3
70歳以上	366	22.8
不 明	9	0.6
合 計	1,605	100

④ 職 業

カテゴリ	回答数 (人)	(割合) %
農林水産業	60	3.7
自営業	101	6.3
会社員・団体職員	402	25.1
公務員・教員	105	6.5
学生	87	5.4
主婦	300	18.7
無職	352	21.9
パート・アルバイト	148	9.2
その他	38	2.4
不明	12	0.8
合 計	1,605	100

5. 中心市街地活性化について取り組むべきこと、お気づきの点

◆自由記載の意見の主旨別に分類した項目ごとの件数※（回答者数 730 人）

項目	件数	意見の主旨
商店や集客施設に関すること	194 件	・魅力ある店舗の必要性 ・閉店時間の早さ ・商店街の営業努力の必要性 など
駐車場や自動車利用に関すること	191 件	・駐車場の少なさ ・駐車料金の無料化 ・路上駐車スペースの整備 など
公共交通・自転車に関すること	77 件	・郊外とのバス接続改善 ・JRとバスとの接続改善 ・自転車道や駐輪場の整備 など
イベントや地域活動に関すること	63 件	・季節にあわせたイベントを開催 ・スタンプラリーによる回遊性の向上 など
福祉・健康・雇用に関すること	45 件	・若者の働く場の確保 ・子育て支援の充実 ・高齢者への配慮 など
観光や地域資源活用に関すること	40 件	・鳥取城跡の整備 ・鳥取砂丘の観光客呼び込み ・鳥取温泉の活用 など
景観や雰囲気に関すること	40 件	・人通りや活気の不足 ・街なみの美化や緑化 など
公園・歩行空間整備に関すること	33 件	・広い公園の整備 ・歩道的美装化やバリアフリー化 など
情報発信に関すること	27 件	・観光PR不足 ・イベントや店の情報不足 ・マスコミを通じた宣伝 ・定期的な広告掲載 など
居住に関すること	11 件	・空き家対策 ・集合住宅の整備 ・高齢者向け住宅の整備 など
文化施設に関すること	8 件	・美術館の整備 など
防災に関すること	1 件	・津波や地震などの災害対応
その他	233 件	・鳥取市全体に関する意見や中心市街地活性化の取り組みと関係性が低い意見など

※1つの回答のなかで複数の項目に関連する記載がある場合それぞれ1件としているため、件数の合計は回答数と異なる